

神奈川大学派遣交換留学生 近況報告書（初回）

所属	経営学部	国際経営学科	学科 専攻
派遣先大学 (国)	カールスルーエ応用科学大学 (ドイツ)		
所属プログラム・ 学部・研究科	International Management		
報告書提出日	2019年9月30日		
留学予定期間	2019年9月～2020年2月		

1. 渡航について

1.1. 出発前の準備

出願料・宿舎デポジット： 280 (ユーロ) /合計

航空券代： 120,000 (円) /合計

ビザ申請関連費： () /合計

その他 ()： () /合計

ビザ取得の際に残高証明書は必要でしたか？ はい いいえ

四月下旬に派遣先の大学から留学許可書が自宅に送られてきました。また、寮に関する情報も同時期にメールで送られてきました。ドイツは現地に到着してからビザを申請するため国内でドイツ大使館へ行く必要はありません。居住先は学生寮と現地のアパートやホストファミリーなどの選択肢があります。居住先等の詳細な情報は八月下旬ごろに現地大学先からメールで送られてきます。学生寮に住む場合は事前に日本の銀行へ行きデポジットを支払います。

八月中旬から下旬にかけてオリエンテーションウィークの詳細なタイムスケジュールやドイツ語のプレイスメントテストの詳細が送られバディの連絡先も同時期に発表されました。

1.2. 渡航について

行きはロシア経由でフランクフルトまで向かいました。夜に到着したためフランクフルトで一泊し、次の日の昼にフランクフルト駅から電車に乗りカールスルーエ駅まで行きました。

駅から大学までは事前にバディーと連絡を取り合い駅まで向かいに来てもらうようにしてもらい合流し、バディーの車に乗り学生寮まで行きました。

フランクフルト中央駅からカールスルーエ中央駅まで特急電車を使用し一時間半ほどかかりました。

料金は約 20 ユーロで、電車のチケットは DB Navigator というアプリケーションを利用して購入しました。便利なので渡航前にインストールすることをお勧めします。

2. 到着後の手続きについて

2.1. 寮・ホームステイ等への入居手続き

学生寮を選択しているのであれば渡航前に事前にデポジットを支払っているはずなのでその場での料金のやり取りはありません。バディーと寮長と共に寮まで案内され使い方などを教わります。

その後、契約書に署名し鍵をもらい終了となります。今後の支払い方法は月々300ユーロで、カードで引き落とされますが日本のカードでは支払うことはできない可能性があるため、現地で銀行口座を開設する必要があります。

またオリエンテーション期間中に学生寮を借りるための契約をするので忘れずに行ってください。キャンパスから1-2キロ離れたところにありますが場所と日時はオリエンテーションのスケジュール表やガイダンスの時に説明を受けます。

2.2. 滞在許可・外国人登録の手続き

ドイツで外国人登録をするためには現地の銀行へ行き閉鎖口座を作らなければなりません。この口座は本人がドイツで長期間生活するためにどのくらい貯蓄があるのかを確認するための口座となります。この口座と保険が必要になるのですが、保険に関しては日本の保険で十分だと現地の方に言われました。他のドイツの大学に現地の保険も加入する必要があるところもあるため詳細はわかりませんが、オリエンテーション期間中に学内にドイツの保険会社の社員が来ることが予定されているのでそこで聞くことをお勧めします。私の場合は特に現地の保険に加入する必要はありませんでした。

日本で取得した海外保険の証明書と証明写真とパスポートを用意し市役所の外国人当局に行きます。ビザの手続きは一人ですることは難しいためバディーと一緒にするようにしてください。

2.3. オリエンテーション・学生登録・プレイスメントテスト等の学内手続き

9月10日にオリエンテーション初日を迎えました。初日は学生証の手続きに必要な書類やそれを発行するために必要な料金証などが同封されている書類を受け取りました。その後、何人かのグループになりキャンパスツアーを兼ねてのキャンパスクイズを行いました。二日目は寮の契約書にサインとデポジットなどを支払いました。三日目はオンラインでの授業の履修方法は学内で使用するためのIDなどの作成などの説明を受けました。四日目にドイツ語のプレイスメントテストがありますが初めてドイツ語を学習する人はテストを受ける必要はなく授業の履修のみとなりビギナークラスからの受講となります。ドイツ語の学習の経験のある人はプレイスメントテストの結果でクラス分けされます。

3. 目標について

3.1. 留学の目的、達成目標

帰国までに TOEIC 800 点や英検準一級の一次試験が合格できるぐらいの実力を身につけたいと思います。ドイツ語は帰国までに三級程度のレベルまで向上したいと考えています

3.2. これまでの学習・研修目標および達成度について

学科の授業が開始される前のドイツ語の授業に関しては同レベルの学生と学習するため特にやりにくさは感じませんでしたがドイツ語で授業を進めていくため最初は戸惑いました。また朝9時から14時までであるため非常に長い授業時間となっています。1回の授業で大きく進むため復習や宿題

を丁寧にしていきたいと思います。

3.3. 今月の学習・研修目標

ドイツ語の最低限の会話や自己紹介、文法の基礎を身につけたいと考えています。また、英語学習に関しては、現地の学生や留学生と積極的に関わるようにし、英語を使用する頻度を増やしていきたいと考えています。グラマーやリーディングに関しては月額制のオンライン英語学習のアプリケーションを購入し、英語学習を積極的に行っていきたいと考えています。

4. 学修について

4.1. 授業時間割

現在の学期	後学期
月	
火	Global economy 9:50-13:00 ドイツ語 15:40-18:50
水	German today 14:00-15:30
木	Stratigic management 11:30-13:00
金	
土	
日	

4.2. 授業について

授業開始日が9月30日のため、まだ本格的に授業を受けていないので答えられませんが、どのような授業を履修するかは5月ごろにメールで送られ、自身が興味のある教科を履修することができます。履修した科目は経済学、経営学、国際マーケティング、経営戦略、国際経営プロジェクト、ドイツ語、ドイツの歴史などです。ドイツの歴史、経営戦略、経済学、などの授業は初週であったため、授業の概要のみで終了しました。国際マーケティングの授業の開始日は11月、国際経営プロジェクトは来年の一月に授業が開始されます。またこの二つの授業は短期間に集中的に取り組む内容となっており、主にプレゼンテーションやグループワーク行う授業となっています。

4.3. 予習・復習・自習について

授業開始日が9月30日のため、現在講義を受けているドイツ語の授業に関しては、授業終了後に課される宿題に取り組みます。また一回の授業時間が長いためその日のうちに復習をするように心がけています。

5. 生活について

5.1. 衣食住について

住居	学内寮（その他： ）
学生寮は個室が七部屋まで用意されており、トイレ、シャワー、キッチンが共用となっています。キッチンを使用する場合は会計担当のハウスメイトに月々5ユーロを支払うとキッチンにある調理器具等が使用できるようになるため、一通り買い揃える必要はありません。寮内の生活雑貨も共用になりそれ	

らが不足すると買い出しに行きます。生活雑貨を購入するための代金は月々5ユーロの支払いに含まれています。

食事は自炊や学内のカフェテリアやレストランなどでしていますが外食はやや高いので主に自炊をしています。現地のスーパーの物価は日本よりも安いいため食費は抑えられます。

5.2. 課外活動について

カールスルーエ市内に住んでいる日本人と日本に興味のある現地の学生が交流する日独交流会に参加しています。不定期に開催される食事会で現地の学生や市内の他大学に留学している日本人学生たちと親睦を深めています。

基本的に日曜日はスーパーマーケットやショッピングモールはほぼしまっているの買い物等は土曜日までに済ますようにしています。

休日は現地で知り合った留学生たちと共に図書館で勉強したり、バディーと共にレストランへ行ったりしています。休日もなるべく現地の学生や留学生と関わるように心がけています。

5.3. 現在までの感想

街の表記が全てドイツ語で表記されているため現地に到着して最初の一週間は苦労しましたが全く英語が通じないわけではないので英語が通じる店など探していました。現地の気候は秋の時期は日中と朝または夜と寒暖差が激しいため体温調節が難しかったです。また日本と比べて乾燥しているため喉を痛めました。

学内に日本人は自分一人しかいないため現地に到着してから1-2週間は心細く感じる部分もありましたが様々な交流会やイベントに積極的に参加することで様々な国籍の方々と交流を深め、多くの方々と知り合うことができ孤独感を感じることはなくなりました。来月からは本格的に授業が開始されるため、より一層多くの学生と交流していきたいと考えています。

以上

神奈川大学派遣交換留学生 近況報告書（ 11 月）

所属	経営学部	国際経営学科	学科 専攻
派遣先大学 (国)	カールスルーエ応用科学大学 (ドイツ)		
所属プログラム・ 学部・研究科	International Management		
報告書提出日	2019年11月8日		

1. 目標について

1.1. 留学の目的、達成目標

TOEIC のスコアで表すと 800 点程度を目標とし、また英語検定準一級の一次試験を合格程度の総合的な英語力を身につけるようにする。英語を使わなければならない環境に自ら積極的に赴き、必ず毎日英語を用いた会話を最低限一時間はするように心がけることで **Speaking** の向上を図っている。

1.2. 先月の学習・研修目標および達成度について

先月は自身の卒業論文の制作に集中していたため、現地の授業の取り組みをおろそかにしてしまった部分があった。現時点では論文は完成してはいないが、教授の校閲を待っている状況のため、今月からは現地の授業にも集中して取り組むことができるはずである。予習や復習をしっかりと行うことは当然のことであるが、授業で不明だった部分や聞き取れなかったところは積極的に現地の教授に質問を試みたりやクラスメートに聞くなどして疑問点をなくしていきたい。

1.3. 今月の学習・研修目標

授業内での発言があまりできていないため、発言をより活発にしていきたいと考えている。専門性の高い単語を使用しながら授業を運営する科目も存在するため、自ら積極的にそれらを学習し授業で発言を求められたときに自身の意見を伝えられるように取り組んでいきたい。講義中、教授から学生に対して質問を投げかけてくる機会が多いためそれにしっかりと対応できるようにし、授業に積極的に参加していきたい。

2. 学修について

2.1. 授業時間割

現在の学期	後学期
月	
火	Global economy 9:50 - 13:00
水	German today 14:00 - 15:30

木	Strategic management 11:30 - 13:00
金	International project marketing
土	International project marketing
日	

2.2. 授業について

Global economy 主に現代経済がどのようにして成り立って行ったのかを時系列をもとに講義するという内容である。また、教授が学生一人ずつに国と会社名を割り当てその会社の最新のニュースや出来事を報告しあいディスカッションを行う。経済に関する専門的な用語などがたびたび登場するため多少、難しさを感じる。しかし講義内では経済の定理や概念などが主なため経済に関する公式や計算等はこの講義では扱わない。

German today 主に現代ドイツの成り立ちや文化や習慣そして国内の政党などドイツに関するあらゆる事柄を学習する講義となっている。留学生用に開講されているためドイツに関する知識がなくとも問題なく講義についていくことができる。

Strategic management 講義時間の約半分は教授の講義で残りの半分はグループワークの形態をとっている。グループワークでは四つの班に分かれ、教授が割り当てた企業についてグループで調べディスカッションをするものとなっている。この講義を履修しているほとんどの留学生は経営を専門としていない人たちであるため一度でも学習したことがあればそこまで難しいと感じることはない

International project marketing 短期集中型の講義でありプレゼンテーションが主となっている。

2.3. 予習・復習・自習について

Global economy 自身が担当している国とその企業に関する最新のニュースを事前に調べ発表に備えることが予習の役割を果たしている。

German today 特に予習や復習を課されることはないため講義終了後、自身が講義中に興味関心を覚えた事柄を調べ学習するようにしている。

Strategic Management グループで担当となっている企業に関する情報を集めることやその企業の経営戦略等を調査し講義時に意見交換をしあい、4-5分程度のディスカッションをする。担当の企業に関する情報収集が自習や復習の役割を果たしている

International project marketing に関して、この講義はまだ開始されていないがシラバスによるとプレゼンテーションを主とした授業展開なため個人またはグループでのプレゼンテーションの準備等が自習であり予習等の役割となることが予想される。

2.4. 語学力について

現在、最も課題としているのが講義中での発言である。教授の質問に対して英語を介して自分の意見を述べることができていない。確かに専門性の高い用語や単語を用いて英語で意見を述べることは難易度が高いことではあるが、自分の知っている単語や用語をつなぎ相手が理解できるまで伝える熱量が不足しているように思える。専門性の高い用語を学習し語彙力を高め、講義内の理解度を向上させていくことも重要であるが、最後まで粘り強く自分の意見を相手が理解できるまで伝えきることにも真剣に取り組んでいきたい。英語を使用する頻度を増加させるために毎日最低限一時間は英語を介して会話するようにしている。その時間が確保できない場合はインターネット等で英語によるプレゼンテーションの番組を視聴することやオンライン英語学習のツールを使用して英語力の向上に取り組んでいる。

3. 生活について

3.1. 衣食住について

住居	学内寮（その他： ）
<p>基本的に自炊をするようにしている。自身で作った料理を現地の学生たちと共に食すこともある。また最近、カールスルーエ市内に新たにアジアンスーパーマーケットがオープンしたため日本食や調味料が入手しやすくなった。値段は日本で購入するより高額であるが、日本食を調理することに関しては困ることはない。家賃の支払いに関してだが、現地の銀行の口座を開設し登録が完了したら自動的に引き落とされるシステムとなっている。しかし、口座の残高が不足している場合、自身の寮のポストに家賃の未支払いの請求のレターが同封されるため気を付けなければならない。レターが届いた場合、カールスルーエ工科大学（KIT）のキャンパス内に学生寮の家賃の支払いなどに関する窓口が存在するのでその職員に質問するとよいだろう。気候に関しては、冬が近づくとつれて気温が極端に低下したり日照時間が短くなっているように感じる。曇りや雨の日が長時間続き寒さが厳しくなっているため厚手のコートなどを着用し防寒対策などしなければ確実に体調を崩すだろう。</p>	

3.2. 課外活動について

<p>現地の大学で知り合った留学生と共に旅行に行くこと、ハイキングやサイクリングなどを共にすることで交流を深めている。天候が芳しくない期間が続いており外にでて汗を流す時間が少なくなっているが、天候が比較的良好なときはなるべく外出するように心がけランニングなど体を動かすようにしている。また、他大学に留学している日本人学生たちや日本に興味や関心を持つ現地の学生たちとの交流会も定期的で開催されているため、都合が合えば積極的に参加するようにしている。12月中旬から1月初旬の期間はクリスマスホリデーのため休暇となるがその期間を利用してドイツ周遊旅行を計画しているところである。カールスルーエはフランスの都市と隣接しており、ヨーロッパ各国の主要都市にも行きやすくドイツ国外に行きやすい立地となっている。時間とお金に余裕があるのなら海外周遊もお勧めである。</p>
--

3.3. 現在までの感想

<p>ビザの申請が完了したため、今回はビザ取得までの流れを説明していく。ビザを申請するためには市役所の外国人当局課に予約することをお勧めする。直接赴くことも可能であるが長時間待たされるのと開庁時間が短いためその日に取得できるかどうか難しい。事前に予約をすればスムーズに手続きを進めることが出来る。私の場合、九月にドイツに到着したが市役所の予約可能日が11月以降であったため申請日までに二か月ほどかかってしまったがその期間を利用して提出書類をそろえることができた。提出書類はビザ申請用紙（この書類は市役所で入手可能）、パスポート、発行してから三か月以内の銀行の残高証明書（自分の場合は35万円程度でも申請可能であった。また万が一金額不足しているといわれた場合に備え、奨学金の証明書も持参した）、入学許可書、保険証明書（日本の保険のみでも申請は可能であった）賃貸契約書、顔写真、申請費 20 ユーロである。</p>

以上

神奈川大学派遣交換留学修了報告書

所 属	経営学部	学 科	国際経営学科	4 年次
派遣先大学 (国)	カールスルーエ応用科学大学 (ドイツ)			
所属プログラム・ 学部・研究科	経営学部	履修言語	英語	
留学期間	2019年9月～2020年2月			
報告書提出日	2月20日			

1. 学修について

1.1. 学期区分

学期	授業期間	試験期間	履修登録するまでの過程
Winter Semester	9月30日 ～1月24日 (14週)	1月27日 ～2月14日	履修登録に関しては留学前に登録することができる。 現地の大学でオリエンテーションを受けた後、学内の個人アカウントを入手し自身のアカウントで授業の履修登録を完了することができる

1.2 履修科目・内容

学期	履修科目名	合計時間	履修内容・授業での取り組み
		(内訳)	
Winter Semester	German Today	1.5 時間	講義は水曜日に 90 分である。主に現代ドイツの成り立ちや文化、習慣、そして国内の政党などドイツに関するあらゆる事柄を学習する講義となっている。試験に関してはエッセイであり、自身の意見を試験時間内に記述する。
		1.5(時間/回) × 1(回/週) × 14(週)	
		31.6 時間	
Winter Semester	Global Economy	3.16(時間/回) × 1(回/週) × 10(週)	講義は火曜日に 190 分である。主に現代経済の成り立ちを、時系列をもとに講義するという内容である。また、教授が学生一人ずつに国と会社名を割り当て、その会社の最新のニュースや出来事を報告し合いディスカッションを行う。試験に関してはレポートである。
		31.6 時間	
		3.16(時間/回) × 1(回/週) × 10(週)	

Winter Semester	Strategic Management	21 時間	講義は木曜日に 90 分である。講義時間の約半分は教授の講義で残りの半分はグループワークの形態をとっている。グループワークでは四つ半に分かれ、教授が割り当てた企業についてグループで調査し、ディスカッションをするものとなっている。期末試験は筆記試験である。
		1.5(時間/回) × 1(回/週) × 14(週)	
Winter Semester	Future Leadership 4.0	22 時間	講義時間は、金曜日は 3 時間半で土曜日は 7 時間半である。主に将来のリーダーシップ像を、企業や会社視点から学習していく。リーダー像としてふさわしい個性や、大衆の惹きつけ方、リーダーとして大成した人間たちを例に挙げ彼らの特徴を学習する。またそれらをビジネスの分野で応用する考え方を講義していく。期末試験はレポートである。
		3.5(金)+7.5(土) (時間/回) × 2(週)	
Winter Semester	International Project Management	22 時間	講義時間は、金曜日は 3 時間半で土曜日は 7 時間半である。講義の内容は経営戦略に関する講義を受けた後グループに分かれ、講義で受けた経営に関する知識を駆使しグループでプレゼンテーションを行う。試験はプレゼンテーションである。
		3.5(金)+7.5(土) (時間/回) × 2(週)	
Winter Semester	International Marketing	22 時間	講義時間は、金曜日は 3 時間半で土曜日は 7 時間半であり、グループを組み自身が将来開発したい製品を考え、それをマーケティングを用いてプレゼンテーションを行う講義となっている。プレゼンテーションは最終日に行いそれ以外の時間は教授の講義とグループディスカッションとなる。
		3.5(金)+7.5(土) (時間/回) × 2(週)	

1.3 学修する上で心がけていたこと、予習復習の仕方について

全体を通じて専門的な単語を頻繁に使用するため講義の予習や復習を熱心に行った。専門性の高い用語を学習し語彙力を高め、講義内の理解度を向上させていくことも重要であるが、最後まで粘り強く自分の意見を相手が理解できるまで伝えきることに真剣に取り組んでいくようにした。英語を使用する頻度を増加させるために毎日最低限一時間は英語を介して会話するようにし、その時間が確保できない場合はインターネット等で英語によるプレゼンテーションの番組を視聴することやオンライン英語学習のツールを使用して英語力の向上に取り組んでいた。英語を向上させるのと同時に授業で行われた用語や定義などを復習し次週の講義に備えた。

1.4 語学力について

常に英語を使用する環境であったため英語力の向上を実感することができた。しかし講義の予習や復習を丁寧に行うも更なる新しく学習する単元を理解するには非常に時間がかかった。英語で経営学などの専門的な知識を学習し自分の知識として定着されるには時間を要するがプレゼンテーションやディスカッション等のアウトプットを用いると学習効率の向上に繋がった。

プレゼンテーションの回数を重ねることで表現力や限られた時間で簡潔に伝える技術を定着させることができた。また渡航前よりも英語の語彙力は向上した。

2. 留学の成果を振り返って

2.1 学修の成果

経営や経済に関する知識を学習したことで会社の構造を把握する考え方が定着した。これらの知識は将来企業で働く際に役立つはずである。企業で務める前に、企業の全体像を、講義を通じて再度学習することができたことは有意義であった。企業の成り立ちや複雑性を理解することは非常に重要であり、またそれを英語で学習することができたことは将来海外で勤務する際に役に立つであろうと考えている。

2.2 学修面での反省点ならびに留学志望者へ学修面のアドバイス

現地の学生や他の留学生たちとプレゼンテーションやディスカッションをする機会が多く、自分の意見や考えを積極的に発する機会が多くあった。講義内で扱っている内容が今まで英語で学習したことがなかった単元であったこともあり、講義の全体像を捉えるのに時間がかかってしまっていた。また、現地の学生の会話の速度が速いため、自分の意見を思いついた時にはすでに次の事柄について討論していたためかなり遅れを取ってしまったことが多々あり、彼らの会話の速さを瞬時に理解しその場で思いついた自分の意見を英語で正確に相手に伝えるには発話力を向上させなければならないのだと感じた。

これから留学する人には、留学前に自身の学習したい専門分野の単語をある程度学習することを勧める。また余力があれば神奈川大学で事前に母国語で学習することをするのもよいだろう。専門分野を学習した経験があれば言語が異なってもある程度は授業を理解することができる。プレゼンテーションやグループディスカッションを行う場合は積極性が重要である。確かに初期段階から自ら進んで意見を述べるのは難しいことではあるが、臆することなく参加して欲しい。プレゼンテーション終了後はグループのメンバーと交流を深めることができるので自身の交流関係も広がるだろう。

2.3 留学生活で得られたもの

現地の大学には日本人がおらず、自ら積極的に現地の学生や留学生たちと関係性を構築していかなければならない状況だったため、積極的に彼らと関わるように心掛けた。自ら交友関係を広げることで様々な方々と知り合うことができ、自身の生活圏を拡大させることができた。課外活動に積極的に参加することで自らのコミュニケーション能力を向上させることや生活のバランスを保つことにもつながり、強い精神力を得ることができた。留学生活全体を通じて自立した生活を確立することができたことは、自身にとって非常に良い経験であった。確かにビザの手続きなどといった個人の力では解決することが難しい問題は現地の学生や留学生の協力を得なければならない場合もあったが、彼らからアドバイスをもらい有意義な生活を送ることができた。

2.4 留学生活での反省点ならびに留学志望者へ生活面のアドバイス

留学前にドイツ語をある程度学習しておくべきだったと強く思った。確かに英語も通じるが基本的には母国語が主流なため、生活する場合は勉強しておくより過ごしやすくなるだろう。

秋から冬にかけては、日照時間が極端に減少するため曇りや雨の日が多くなる。そのため、特に秋派遣を希望する学生は現地で適度な運動をすることを勧める。

食生活に関しては、アジアンスーパーマーケットが大学の近郊にあるため日本の調味料や食材はそこで購入することができるが、値段がやや高いため日本から持参するなどして節約するとよいだろう。

ビザの手続きに関しては、ビザの取得には時間がかかるため、国内で準備が可能なのであればしたほうが良いだろう。ドイツのビザは現地の外国人当局で取得するため一人で行うのは難しいので、現地の学生に協力してもらうようにしたほうがよい。

寮に関しては、留学前に忘れずにデポジットを支払っておかなければならない。入寮する際は現地に到着する日時をあらかじめバディーに連絡しておくことと寮まで案内してもらえるため事前に彼らと連絡を取れるようにするとよいだろう。

カールスルーエは勉学に集中することができる環境であるため、自分の興味のある講義や科目を集中して勉強することができる。また学生のサポートも充実しており、路面電車の無料定期やスーパーマーケット等のクーポンなどが支給される。学生街として有名なので、ある程度の生活は支援制度が整備されている。

学業に専念することができる環境は整備されているため、是非自分の興味の専門分野の勉強に励んで欲しい。

派遣交換留学中の生活等に関する調査

国際センター

記入年月日：2020年2月20日

所 属	経営学部	国際経営学科・専攻	4 年次
派遣先大学	カールスルーエ応用科学大学		6 ヶ月間

I. 留学先での住居について

1	住居形態は 何でしたか？	<input checked="" type="checkbox"/> 学内寮 <input type="checkbox"/> 学外寮 <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> 民間アパート <input type="checkbox"/> その他 ()
2	住居形態の詳細を教えてください。	(一人一部屋が用意されている。ルームメートは最大6人。キッチン、トイレ、シャワーは共有。)
3	入居時手続き	(留学前にデポジットを支払う。現地の寮に到着次第、鍵を受け取り入寮する。)
4	費用 (月額)	(300 ユーロ) (食費 食費含む/月)
5	支払方法	クレジットカード
6	住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 洗面所 <input checked="" type="checkbox"/> トイレ(共同) <input type="checkbox"/> トイレ(個別) <input type="checkbox"/> シャワー(共同) <input type="checkbox"/> シャワー(個別) <input type="checkbox"/> 浴槽 <input type="checkbox"/> 冷暖房 <input type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> ジム <input type="checkbox"/> 洗濯機 <input type="checkbox"/> 乾燥機 <input type="checkbox"/> その他 ()
7	住居選択方法	<input checked="" type="checkbox"/> 渡航前に申込 <input checked="" type="checkbox"/> 留学先大学の斡旋 <input type="checkbox"/> 友人・知人の紹介 <input type="checkbox"/> 不動産業者・新聞を通じて <input type="checkbox"/> その他 ()
8	周囲環境	(多くのスーパーマーケットが寮の近隣にあった。駅からは路面電車で約10分程度)
9	アクセス	(徒歩4分)
10	留学中の住居に関して アドバイス	(事前にデポジットを支払わなければならないので要注意。住居に関しては学生が選択することができない場合がある。)
11	引越された方は引越し先の住居形態を記入 ください。	<input type="checkbox"/> 学内寮 <input type="checkbox"/> 学外寮 <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> 民間アパート <input type="checkbox"/> その他 ()
12	詳細を教えてください	(ルームメイトの人数は6名うちイタリア人、ドイツ人、チュニジア人が1名ずつ、フランス人が2名。部屋は6つある、間取りはワンルームで、シンク、ベッド、机、クローゼットが備え付けられている。)

II. 通信環境について

1	日本キャリアの携帯電話	持参した
2	現地キャリアの携帯電話	現地でSIMカードを購入
3	現地携帯電話の取得手続きの方法	(ショッピングモールの電気屋に行きSIMを購入)
4	自宅のインターネット 接続環境	有線 (プロバイダは別途契約)
5	大学内インターネット 接続環境	無線 (大学または寮へのLAN接続)

III. 留学費用について

諸経費（1ヶ月の平均）		
1	宿舎費	300（ユーロ）/月
2	食費	50（ユーロ）/月
3	交通費	30（ユーロ）/月
4	通信費	15（ユーロ）/月
5	娯楽費	50（ユーロ）/月
6	図書費	0（ユーロ）/合計
7	学用品（教科書など）	0（ユーロ）/合計
8	被服費	60（ユーロ）/合計
9	医療費	0（ユーロ）/合計
10	雑費・その他	100（ユーロ）/合計
上記以外にかかった大きな金額の内訳（留学準備期間含む）		
11	出願料・宿舎デポジット	400（ユーロ）/合計
12	ビザ申請関連費	50（ユーロ）/合計
13	航空券代 （休暇時旅行費用は除く）	1500（ユーロ）/往復
14	その他	0（ユーロ）/合計
15	留学全日程に要した総額（概算）	4000（ユーロ）/合計
お金の持って行き方		
16	<input checked="" type="checkbox"/> 現金（渡航時：八万円） <input type="checkbox"/> 国際キャッシュカード（銀行名：三井住友） <input type="checkbox"/> 海外送金 <input type="checkbox"/> その他（ ）	
17	現地で銀行口座開設	した
18	手続き方法・利点・欠点	事前に口座開設するため事前予約が必要である。口座開設が完了するまで時間がかかるためオンラインバンクでの開設をすすめる。
19	お金に関するアドバイス	留学前にある程度まとまった金額を貯金する必要がある。

IV. 保険・医療について

1	海外旅行（留学）保険の種類	L2プラン （6か月分で15万円）
2	留学中に病気・けが等をし、通院・薬の処方を受けましたか？	いいえ
3	海外旅行（留学）保険の適用を受けましたか？	受けなかった
4	日本から持参した方が良かったなと思う薬などはありますか？理由は何ですか？	特になし

V. 持ち物について

1	日本から持っていったもの
	ラップトップ、充電器、防寒具、バスタオル、本など
2	現地で購入したもの
	SIMカード、洋服、生活用品など
3	（自分は持っていかなかったが）日本から持っていったら便利だと思ったもの
	特になし

VI. 留学先で困ったこと

ドイツ語が主要言語なためコミュニケーションを円滑に取ることが難しかった。英語で話しかけても問題ないが基本的にはドイツ語で会話がなされるため、留学前にドイツ語を勉強することを強くすすめる。

VII. その他、後続の学生へのアドバイス

ドイツは自身の学業に集中することができる環境であると思うので、勉強に励んで欲しいと思う。